

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 27 年 3 月 24 日	
所属部局・職	アジア・アフリカ地域研究研究科 博士課程前期 1 回
氏名	横塚 彩

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
コンゴ民主共和国・ワンバ村
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
物理的距離と心的距離がもたらす住民と大型類人猿の関係性に関する研究
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 26 年 11 月 15 日 ~ 平成 27 年 2 月 27 日 (105 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
WCBR
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
<p>・はじめに</p> <p>前回 2014 年 8 月の初渡航では、近隣地域でのエボラ出血熱発生のため、期間を大幅に短縮し、約 1 ヶ月の調査となった。今回はコンゴ民主共和国でのエボラ出血熱終息宣言がでたため約 3 ヶ月間の調査を行うことができた。</p> <p>・調査内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワンバ村全体の人口調査 ・森の罾に関する調査 ・市場の商品およびブッシュミートに関する調査 ・住民のボノボ観に関する調査 ・子供を対象としたボノボ観調査 <p>・今回の調査を通して分かったこと</p> <p>私が調査を行ったコンゴ民主共和国ワンバ村には、ボノボと人に関する口頭伝承が多数ある。地域住民はこの伝承を共有しており、それがこの地域の特徴である「ボノボを食べない」ということを助長する一つだと思っていた。</p> <p>しかし、120 名の地域住民を対象にボノボに関するインタビューを行ったところ、口頭伝承を知っている人と知らない人の割合はほぼ 50% ずつであった。また、伝承や、森での活動を通して住民はボノボに遭遇する機会が多くあるため、人々はボノボに対して親しみをもって食用としないのだと予想していたが、調査を通して、人々はボノボへ親近感よりも恐怖心をもっていることがわかった。</p> <p>子供を対象としたボノボ観調査では、研究者によって人付けが進んでいるワンバ、現在人付けを行っている隣村のイヨンジ、近隣の森にはボノボがいないジョルの小学校を訪問し、1 年生と 3 年生を対象にボノボとの遭遇に関する質問と口頭伝承を知っているかについて調査を行った。データを見てみると、人付けが進んでいるワンバ地域において遭遇率、口頭伝承の認知率が共に他地域に比べて高かった。</p> <p>・今後の展開</p> <p>言葉の壁もあり、インタビューの精度をあげながら、ボノボ観のみならず他の霊長類に関しても地域の人々がどのような感覚を持っているのかを調査予定である。また、大人を対象としたインタビューはワンバ地域でのみ行ったので、他の地域ではどのようなボノボ観を持っているのか調査していきたいと思う。</p>
<平成 26 年 5 月 28 日制定版> 提出先： report@wildlife-science.org

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



▲小学校でのボノボ親に関する調査



▲ジョルでのブッシュミートに関する調査



▲ボノボ調査への同行



▲罨にかかったジャイアントラット



▲ワンバの市場

6. その他 (特記事項など)

調査基地滞在中にアドバイスや様々なトラブルに対応してくださった坂巻哲也研究員をはじめとした京都市立霊長類研究所のみなさまに感謝いたします。ありがとうございました。